

甘 楽中女子駅伝部 関東・全国大会で目標達成！

第28回関東中学校駅伝競走大会(神奈川県横浜市)が12月1日に開かれ、県大会で優勝した甘楽中女子駅伝部が出場しました。関東各都県から勝ち上がった33の強豪校の中で、9位(5区間12.48km・43分07秒)と健闘しました。

また、12月15日には第27回全国中学校駅伝大会(滋賀県希望が丘文化公園)に出場しました。昨年の順位(19位)を上回るという目標を掲げた選手たちは、全国の代表校に負けない粘り強い走りですすきをつなぎ、49チーム中13位(5区間12km・43分25秒)でゴールしました。応援団の熱い声援を受けて、見事目標を達成した選手たちの走る姿は、元気と感動を届けてくれました。



前列左から 高橋さん、田中さん、大類さん、今井さん、落合さん
後列左から 浅香さん、佐藤さん、飯塚さん

健闘した女子駅伝部の選手たち

- 1区 高橋雛乃さん(3年)…緊張せずに自分らしく最初の1000mを走ることができ、去年よりも順位を2つ上げて2区にタスキを渡せた。この経験を次にいかしていきたい。
- 2区 田中優里奈さん(3年)…自分の納得いく走りではできなかったが、チームでは去年よりも6つ順位を上げることができて良かった。
- 3区 大類瑞季さん(3年)…練習してきた成果を発揮し、チームの順位に貢献できて良かった。
- 4区 今井彩香さん(3年)…関東大会よりいい走りが出て、チームの順位を上げて、流れよくアンカーにタスキをつなげられて良かった。

5区 落合優希奈さん(1年)…関東大会で思うような走りができなかったので意識して練習し、全国では、先輩がつないだ順位を上げて、いい締めくくりができた。

補員 浅香寧々さん(2年)…全国の舞台に2年連続で立てたことは誇りに思う。自分のレースは最後まで全力で走ることができて良かった。

補員 飯塚雪未さん(2年)…初めての全国大会で緊張したけれど、自分の役割をしっかりと果たし、レースもいい走りができた。

補員 佐藤杏音さん(1年)…1～5区のサポートができ、自分も悔いの残らない走りができ、良い経験になった。



全国大会の会場へ駆け付けた応援団の皆さんと一緒に

瑞宝単光章を受章 黒澤さん

危険業務従事者叙勲の伝達式が11月15日に県庁昭和庁舎で行われ、黒澤住由さん(造石)が警察功労で瑞宝単光章を受章しました。

黒澤さんは、昭和44年から37年間、群馬県警察の警察官として警察業務に精励されました。在職中は、主に捜査部門に長く携わり、県民の安全・安心を守るため、事件・事故の解決に向けて尽力されました。

黒澤さんは「大久保事件や連合赤軍事件などで現場に赴いたことは、強く印象に残っています。上司や同僚、支えてくれた家族に感謝しています」と話されました。



保育園児にミカンをプレゼント 吉田さん



吉田さん (左) とさくら組 (2歳児) の園児

かんら保育園に12月2日、吉田藤太郎さん(白倉)から約1,000個のミカンが届けられました。

吉田さんは手を入れず畑が荒れてしまうのならばとミカンの苗を植え、地元ではミカン栽培の先駆者的な存在です。地球温暖化の影響なのか、今ではどこでもミカンがなるようになったと言い、今年のミカンは収量は少な目だが、味はいいと話されました。吉田さんがさくら組(2歳児)の園児一人ひとりにミカンを配ると、大きな声で「ありがとうございました!」とお礼の言葉がありました。吉田さんは「風邪を引かないようにミカンをたくさん食べて」と呼び掛けました。

子どもいじめ防止フォーラム開催

～一人一人が大切にされる集団をつくるために 私たちにできること～

いじめ防止に向けた各小中学校の取り組みの発表、意見交流を通して、学校・家庭・地域・関係機関との連携を強化する「第7回甘楽町子どもいじめ防止フォーラム」が12月19日、小幡小学校体育館で開催されました。

各学校の代表が独自に取り組んでいる活動の報告や成果を発表し、地域の皆さんへのメッセージも伝えました。また、町いじめ防止啓発標語コンクールの表彰も行われました。優秀作品は右のとおりです。



会場全員で「いじめゼロ宣言」を唱和

令和元年度甘楽町いじめ防止啓発標語コンクール優秀作品(敬称略)

『誰にでも 感謝の言葉 ありがとう』	石黒紬愛(小幡小5年)
『ありがとう みんな大好き その言葉』	堀口真緒(福島小6年)
『みんな一緒に 安心できる 居場所づくり』	戸丸彩花(新屋小6年)
『見てみよう 相手の気持ち 心の中を』	神宮梨乃(甘楽中3年)

犯罪や非行の防止に尽力

更生保護制度施行70周年記念・第64回群馬県更生保護大会が11月6日、群馬音楽センター(高崎市)で開かれ、犯罪や非行のない暮らしやすい社会づくりに功労のあった次の皆さんが表彰されました。

保護司

- 群馬県知事感謝状 富田弘海さん(天引)
- 関東地方更生保護委員会委員長表彰
佐藤 明さん(小川)
- 前橋保護観察所長表彰 田村清子さん(秋畑)

更生保護女性会

- 関東地方更生保護委員会委員長感謝状
峯岸ふじ江さん(天引)
- 関東地方更生保護女性連盟会長表彰
中野恵理子さん(国峰)
- 前橋保護観察所長感謝状 高橋文子さん(秋畑)
- 群馬県更生保護女性連盟会長表彰
新井良枝さん(金井) 片田悦子さん(小幡)
茂原千恵子さん(善慶寺) 吉田利枝さん(庭谷)



保護司の皆さん



更生保護女性会の皆さん

みんなで力を合わせて 保育園おゆうぎ会

かんら保育園のおゆうぎ会が12月7日、町文化会館で開かれました。

総勢196人の園児たちは、保護者など満員の観客の前で一生懸命練習してきた歌や演技を披露しました。手作りの衣装で踊る愛らしい姿に、会場からは大きな拍手が送られました。



- ↑オペレッタ「さるかに大合戦」(年長・きりん組)
- ←ミュージカル「雪の女王」(年長・ぞう組)

人権ポスターコンテストで入賞



左から 加藤さん、町田さん、桑原さん

人権について理解を深めるための第16回「人権ポスターコンテスト」(富岡人権擁護委員協議会・前橋地方法務局富岡支局主催)が開かれ、甘楽郡・富岡市・上野村の小学5年生を対象に517点の応募がありました。

12月7日に富岡市生涯学習センターで入賞者の表彰式が行われ、作品も展示されました。

町の入賞者は次のとおりです。

- ◇人権擁護委員長賞 町田 優さん(新屋小)
- ◇甘楽町長賞 加藤瑛太さん(小幡小)
- ◇甘楽町教育長賞 桑原祐隼さん(小幡小)

親子で地域の素晴らしさを知る 小幡小親子探検

小幡小学校PTA(西有孝裕会長)主催の親子探検が12月1日、小幡地区で行われました。これは、小幡秋畑地区に住む児童が地域を探検し、地域の魅力や住む人々の暮らしに新たな発見をしてもらうことを目的に初めて開催したものです。

参加した児童や保護者など42人は武家屋敷や名勝楽山園などを3時間かけて回り、城下町小幡の歴史や文化に触れました。また、チェックポイントではクイズに答え、手をつなぎゴールするなど、親子・地域の距離を近くに感じる体験となりました。

斎藤創一郎さん(6年)は「小幡の素晴らしさを知って、地域をきれいに大事にしていきたいと思った」と話しました。



町指定天然記念物「高橋家のムクロジ」前でクイズに挑戦

ウガンダで体育を指導 新井さん



茂原町長に派遣前の意気込みを話した新井さん(右)

JICA(国際協力機構)ボランティアとして2年間海外へ派遣される新井敦子さん(金井)が11月29日に役場を訪れ、茂原町長・森平副町長と懇談しました。

県内の小学校教員である新井さんは、ウガンダの小学校教員養成校で体育指導に従事します。小さいころから海外に興味があり、中学生研修団員として姉妹都市イタリアチェルタルド市を訪問した経験を持つ新井さんは、これまでも留学やボランティアなど、海外での活動を積極的に行ってきました。

新井さんは「体育の授業が十分に実施されていないという現地で、まずは様子を見て活動したい。友だちと協力することなど、日本の体育の良いところも伝えたい」と話されました。



50周年を祝う 甘楽サッカークラブ

甘楽サッカークラブ(瀬下伸也代表)は11月24日、ふれあいの丘陸上競技場で創立50周年記念サッカーフェスティバルを開き、町内の小中学生を対象にしたサッカー教室やクラブ員・OBなどの試合を行い、交流を深めました。また、同日に祝賀会も行われ、50年の長きにわたり受け継がれてきた伝統を振り返り、親睦を深めました。

瀬下代表は「先輩方から受け継いだチームを今後も長く継続し、子どもたちが大人になって、さらにつなげていってほしい」と話されました。



記念フェスティバル参加者の皆さん

自ら育てた蕎麦を堪能 蕎麦打ち体験

名人(右)からこね方のコツを学ぶ参加者



秋畑那須地区のちいじがき蕎麦の里「蕎麦作り入門」最後の蕎麦打ち体験が12月7・8日に那須庵で開かれました。

蕎麦オーナー約100人が自分たちで育てた蕎麦粉を使い、蕎麦打ち名人の指導の受けて蕎麦を打ち、香り高い新蕎麦を味わいました。

鈴木佳代子さん(伊勢崎市)は蕎麦作りを振り返り、「傾斜地での作業は大変でしたが、景色を見ながら気持ちよくリフレッシュできました。蕎麦打ちでは、こねるのが難しかったけれど、自分で作った蕎麦が食べられて満足です」と話していました。

プログラミングに興味を深める 公民館教室

プログラミング教室が12月7・14・21日(全3回)、町公民館で開かれました。これは、来年度から小学校で必修化となるプログラミング教育の基本に触れてもらおうと小学5・6年生を対象に開催したものです。

群馬大学の学生団体PPP-Cのメンバーを講師に迎え、12人の児童が学習用ソフト「Scratch」を使って、パソコン上でキャラクターを動かしたり、ゲームを作成し、論理的思考力やものづくりの楽しさを学びました。

参加した杉山侑輝さん(小幡小5年)は「プログラミングは初めてだったけれど、意外とかんたんで楽しかったです」と話してくれました。



大学生からプログラミングを教わり、関心を高める児童

県大会で活躍!! ソフトテニス・三森姉妹

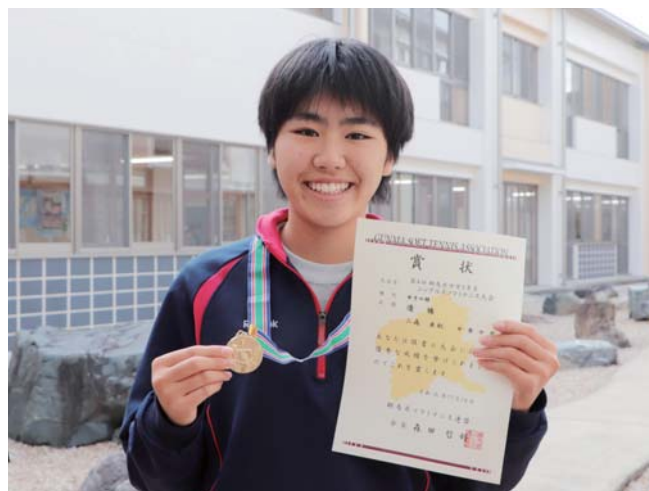
高校新人ソフトテニス大会で準優勝! 姉・結衣さん

群馬県高等学校新人ソフトテニス大会が10月20日、前橋総合運動公園で開かれ、三森結衣さん(高崎女子高校2年・天引・右写真)が女子個人・ダブルスで準優勝しました。

小学校3年生からソフトテニスを始め、中学・高校と9年間、日々練習に励んできた三森さんは「新人戦では平常心を心掛け、積極的にボレーに出て、強気で攻めることができました。今後の目標は、部活の仲間と協力し、団体戦を勝ち抜いてみんなで関東大会に出場することです」と話してくれました。



中学3年生シングルス大会で優勝! 妹・亜紀さん



群馬県中学3年生シングルスソフトテニス大会が11月16日、県立敷島公園テニスコート(前橋市)で開かれ、三森亜紀さん(甘楽中3年・左写真)が女子の部で優勝しました。三森さんは、県内トップレベルの選手たちを相手に勝ち進み、これまで積み重ねてきた練習の成果を発揮しました。

三森さんは「優勝できてとてもうれしいです。フォアのストローク(利き腕側でのプレー)で相手を先に攻めることができました。高校進学後もテニス进行、インターハイ出場を目指します」と笑顔で話してくれました。

チームのために全力で戦う ジュニアソフトテニス

甘楽町ジュニアソフトテニスクラブ(外所淳也代表)主催の第1回高川庚三杯争奪ジュニアソフトテニスクラブ対抗戦大会が11月9日、浅間堤公園テニスコートで開かれました。

これは、甘楽町・東京都北区の「都市間交流ジュニアソフトテニス講習会10周年」を記念して開催したものです。県内から参加した16チーム(1チーム5人編成)80人が、男女ダブルスとシングルの団体戦でチームの優勝を目指して全力で戦いました。

結果は、甘楽町ジュニアA(渡邊惺矢さん、森平蓮心さん、大河原 兜さん、佐野天音さん、岩井陽菜乃さん)が見事優勝を飾りました。



優勝した甘楽町ジュニアA選手と外所代表(後列左)、大会会長で北区ソフトテニス連盟会長の高川庚三さん(右)